

1 3 伝統産業製品の海外展開への支援など日本文化を支える 伝統産業の振興

(経済産業省)

▶ 伝統産業の衰退に歯止めを掛けるための海外展開や技術・技法の継承への支援を

1200年を超える歴史に生まれ、今も日本の伝統・文化が生き続ける京都は、国際社会における我が国の存在感を高めるとともに、観光立国の実現に向けて大きな役割を果たしていると考えています。その京都の魅力の核は、文化、芸術、芸能、文化財、歴史的な景観等ではありますが、これらを支える大きな柱のひとつが伝統産業です。

本市では、この重要な地場産業の振興に向けて、これまでから後継者育成や原材料、道具類の確保から新商品開発、首都圏や海外での販路開拓などきめ細かな取組を推進してまいりました。とりわけ、「京都市清酒の普及の促進に関する条例」(平成25年1月制定)の施行にともない、日本酒を通じて、74品目にも上る本市伝統産業の価値を再認識し、日本が誇る和の文化を一人でも多くの方に触れていただける環境づくりを推進しているところです。

しかしながら、生活様式の変化や海外製品の流入により、伝統産業製品の生産量、出荷額の減少に歯止めが掛からず、京都の伝統産業は永きにわたって受け継がれてきた優れた技術や卓越した技法の継承すら危ぶまれる状況になっております。

伝統産業の衰退は、日本の文化の衰退に直結すると言っても過言ではありません。このまま進めば、美しい国土づくりや観光立国もいずれ画餅に帰することは明白です。

国におかれましては、日本の文化・伝統の強みを活かしたクール・ジャパンの推進に取り組まれているところですが、日本の伝統文化を支えている伝統産業の振興に一層強力に取り組んでいくために、次のとおり求めます。

提案・要望事項

- 1 伝統産業の海外展開等への積極的な支援
 - (1) 海外展開に向けた地方自治体の取組を促進するための支援制度の創設
 - (2) 外国人観光客の誘客に繋がる見学可能な制作工房整備に対する財政的支援
- 2 希少となった伝統産業の技術・技法の後継者への継承のための「伝統的工芸品産業支援補助金」の制度拡充

現 状

生産量(平成 25 年)

- ・西陣織 ピーク時(昭和 50 年)の 8.7%に
 - ・京友禅 ピーク時(昭和 46 年)の 2.6%に
- 西陣織:西陣織工業組合「西陣織機業調査報告書」「西陣生産概況」
京友禅:京友禅協同組合連合会「京友禅京小紋生産量調査報告書」

出荷額(平成 22 年)

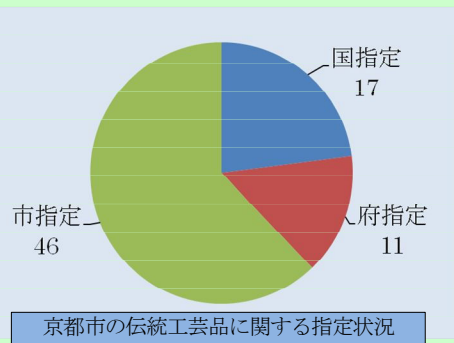
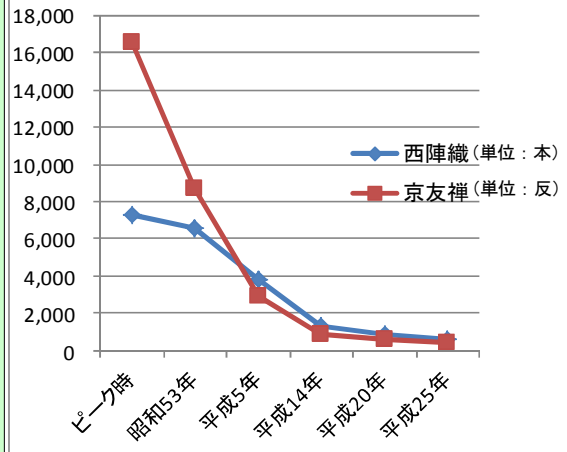
- ・西陣織 ピーク時(昭和 58 年)の 6.3%に
 - ・京友禅 ピーク時(昭和 55 年)の 8.7%に
- 西陣織:「京都市の工業」(絹, 人絹織物業)
京友禅:「京都市の工業」(織物手加工染織整理業)

生活様式の変化, 海外製品の流入, 不況などによる生産額の激減

京都市 74 品目のうち, 国指定の伝統工芸品(産地規模の要件※あり)が圧倒的に少ない。
※一定地域に 10 企業以上又は 30 人以上の従事者が集積

⇒小規模な業種ほど国の支援(補助金等)が受けられない。

西陣織・京友禅生産量



京都市における主な取組

○伝統産業に関する新規需要創出(市場開拓)に対する支援

- ◇京もの国内市場開拓事業
- ◇京都ブランド海外市場開拓事業
- ◇京ものユースコンペティション(平成 25 年度～新規実施)
- ◇琳派四〇〇年記念事業(平成 26 年度～)
 - ・琳派×デザインコンペティション
 - ・伝統産業の日 in R I M P A



古墳時代に日本に伝わった象嵌。刀剣・武具類の装飾として発展

○伝統産業に対する関心と理解を深める取組

- ◇本市独自の条例で春分の日を「伝統産業の日」と定め, 伝統産業の魅力を発信する各種イベントを実施
- ◇議員提案による本市独自の条例である「京都市清酒の普及の促進に関する条例」を全国で初めて制定し, 日本酒の振興に合わせて, 和食や京焼・清水焼といった伝統産業の普及を推進



○技術の継承や後継者の育成

- ◇伝統産業従事者への設備改修等事業補助制度の創設(平成 26 年度), 技術後継者育成制度



<提案・要望事項>

- 伝統産業の海外展開等への積極的な支援
- 希少となった伝統産業の技術・技法の後継者への継承のための財政的支援

日本の文化を支えてきた伝統産業の更なる振興を図るためには, 国の積極的な支援が必要!